

2009年3月

# 海外安全対策 マニュアル

テキサス・オクラホマ編



在ヒューストン日本国総領事館

## はじめに

海外旅行や国際的なビジネスが活発になり、日本人が海外を訪れる機会が増えるにつれ、生命、身体、財産を脅かす各種犯罪の被害に遭うケースが増えています。

また、最近では強盗・誘拐・スリ等の一般犯罪に加え、テロに巻き込まれないような心構えも必要となっています。

このような状況は、テキサス及びオクラホマ州の各都市においても決して例外ではありません。

またこれらの州では、昨年のハリケーン・アイクのように、ハリケーンや竜巻等が発生しますので、自然災害に備えることも大切です。

このマニュアルが、皆様がこのような危険や災害から身を守る一助となれば幸いです。



## I テキサス・オクラホマ州 防犯の手引き

防犯の心構え ..... p2	犯罪への対応 ..... p5
基本的な心構え	スリ・置き引き等
住居について	路上強盗
日常生活での留意点	
自動車の使用について	
誘拐・襲撃への対策 .... p6	テロへの対策 ..... p8
通勤等移動時	テロの脅威レベル
自宅・事務所等	テロ関連情報の収集
万への備え	個人に対するテロ
	事務所への爆弾テロ等
メキシコ国境周辺都市 の安全対策 ..... p11	資料 ..... p12
国境付近の特殊事情	テキサス州・オクラホマ州の 最近の犯罪動向
犯罪防止のための留意事項	

## II

ハリケーン ..... p15	『全米・カナダ邦人 安否確認システム』 ..... p17
-----------------	----------------------------------

# I テキサス・オクラホマ州防犯の手引き

## 1. 防犯の心構え

### □ 基本的な心構え

1. 「自分と家族の安全は自分達で守る」との心構えが基本です。
2. 「予防」こそが最良の危機管理。そのための努力を惜しんではなりません。
3. 悲観的に準備し、楽観的に行動します。
4. 現地での行動の三原則
  - 目立たないこと
  - 用心を怠らないこと
  - 行動のパターン化を避けること（行動を予知されないこと）
5. 情報の収集に努めましょう。現地社会に早く溶け込み、治安、情勢、対日感情等に関する様々な情報が常に得られるようなネットワーク作りを心掛けて下さい。
6. 精神衛生と健康管理に留意しましょう。

現地の文化・風俗・慣習や価値観を十分に考慮して行動してください！

### □ 住居について

住居の安全確保が生活面での安全対策の基盤です。

#### 1. 住居の選定

家を決める時には、地域の治安状況を確認する必要がありますので、なるべく多数の人から情報を収集するようにしましょう。尚、一般的には、次の様な所は避けた方が賢明です。

- イ. 高速道路(または賊の逃げ道となる幹線道路)の出入口に近い家
- ロ. 表通りから見えない家
- ハ. 玄関周辺に樹木が生い茂り、賊が潜みやすい家
- ニ. 夜間、周辺の照明が十分でない家

#### 2. 住居の防犯

複数の鍵をかける事は、解錠の手間がかかるので賊の侵入防止に有効です。入り口以外(窓など)にも必ず鍵を掛けて下さい。外出の際だけではなく、在宅の際にも二重に鍵をかけ外来者を確認して鍵を開ける習慣をつけて下さい。

#### 3. 住居が定まったら、総領事館に在留届を提出しましょう。

### □ 日常生活での留意点

#### 1. 近所付き合い

日本のように手土産をもって引っ越しの挨拶に回る習慣はありませんが、機会あるごとに隣人と会話を交わし親しくなるように心掛けましょう。

#### 2. 電話

イ. 電話は、緊急の際、警察を呼ぶ手段となるので、必ず加入する。その際、電話会社に電話番号の電話帳への不掲載を依頼することもできる。また、別途料金が必要とはなるが、電話会社の番号案内でも調べられないようにすることもできる。

ロ. 電話がかかってきたときは、相手が名乗る前に自分の番号や名前を教えない。

親が在宅かどうか見知らぬ人が電話で尋ねてきたら、不在の場合でも、「家に居るが手が離せないので名前を残すように」と受け答えするよう、日頃から子供達にも教えておく。

#### 3. 訪問者

訪問者があっても、直ぐには扉を開けず、覗き窓などから訪問者の身元を確認します。

不審な同伴者はいないか、付近に不審者はいないかなど良く確認します。身元を確認した後、まず安全チェーン(用心鎖)をかけたまま細めに扉を開け、再度確認してから扉を開けます。

## 4. 長期間家を留守にする場合

近所の人に新聞、手紙類の収集を依頼するか、郵便局、新聞社にバケーションホールドを頼んでおき、留守宅であることなるべく判らないようにしましょう。夜になったら自動的に電灯を点滅させるセンサーやタイマーが安く手に入りますので、利用されるのも良いでしょう。また、地域によっては、警察による特別巡回を依頼することができますので、所轄の警察に問い合わせして下さい。

## □ 自動車の使用について

毎日の通勤経路や通勤時間を変えて、待ち伏せをさけてください。また、駐車場や自宅のガレージは、一番犯罪の起こりやすいところです。駐車する場合は、次のことに注意して下さい。

1. 車にはできるだけ警報装置を備え付けましょう。車の盗難防止には、ハンドルを固定する補助錠の使用も有効です。
2. ほんの1、2分でも車を離れる場合はカギを抜き、施錠するよう心掛けて下さい。
3. 貴重品やカバン、コンピューター等は、車の中、特に外から見える場所には絶対に放置しないように心掛けて下さい。いくらドアにカギをかけたからといっても気休めでしかありません。車の窓を壊されて盗難にあうケースや車ごと盗まれることもあります。置き引き、スリに続いて多いのがこの被害です。やむを得ず、車内に荷物を放置する際には、荷物をトランクにしまう等外から見えない位置に収納するようにしましょう。
4. 駐車場に駐車する場合は、柱の陰、バンタイプの車の隣、外見上手入れの悪い車の隣は避けるようにし、人目の多いところに駐車しましょう。
5. 車に乗るときは、周囲に人が潜んでいないか十分気を付け、車内の安全を確かめたらすぐ車内に入り、ドアをロックしましょう。
6. **凶悪犯罪の多くはガレージ内で発生しています。**自宅のガレージは常に整頓し、賊が潜むような死角を作らないようにしましょう。

## 2. 犯罪への対応

## □ スリ・置き引き等

## 1. 被害を少なくするための三原則

- 多額の現金を持ち歩かない
- 人前で現金を見せない
- バッグはファスナーや留め金を必ず閉めて、自分の方に時々自分の後方を確認する、取られそうになったら大声を上げる等、常に警戒を怠らない心構えが必要

## 2. 万一盗難にあった場合

必ず警察に届け、盗難品がリストアップされている警察証明書を手入しておきましょう。盗難品が見つかったときや、保険の請求の際に必要になります。

## □ 路上強盗

## 1. 路上で強盗に遭ったとき

抵抗せず金を渡した方が怪我がなくて済むことが多いと言われています。その際、いきなり内ポケットに手を入れて財布を出そうとすると相手にピストルを取り出す動作と誤解され、刺されたり撃たれたりすることがあります。むしろ、金のありかを指さしたり、目で教えることで、相手に取らせる方が無難です。

## 2. 強盗に遭わないために

夜間の一人歩きを避け、危険な地域に近付かないことです。また夜間人影のない駐車場も被害にあう確率の高い場所です。



### 3. 誘拐・襲撃への対策

#### □ 通勤等移動時

1. 犯罪者は、犯行前にその標的とする者の行動を下調べするので、通勤や買い物をする際は、その経路や時間を変えましょう。
2. 不必要な夜間の外出はできるだけ避け、外出する場合は帰宅時間を家族又は信頼できる友人に告げておきましょう。
3. 過去の例では、車の乗降の際や信号待ちで停止している時が特に危険です。不審な車や人物が居ないか注意し、また、待ち伏せ予防のため、自宅や事務所前等に駐車中のタクシーは可能な限り利用しないようにしましょう。
4. 車で走行する際は、次の点に留意して下さい。
  - イ. 尾行車の有無に注意し、尾行されていると気付いたら目的地に直行せず最寄りの警察署やショッピングセンター等に退避する。退避場所がない場合には、クラクション等を鳴らし、周囲の人やバトカーの注意を引く。
  - ロ. ドアは必ずロックし、窓は開けない。
  - ハ. ヒッチハイカー等を同乗させない。
  - ニ. 駐車時には、短時間でも必ずドアをロックする。
  - ホ. 寂しい田舎道を避け、土地勘のない区域には立ち寄らない。

#### □ 自宅・事務所等

1. アイカメラや二重扉など、設備面での安全対策を十分にとりましょう。
2. 不必要に自分、家族、自宅、事務所等の写真を撮らせないようにしましょう。
3. 見知らぬ者はたとえ子供であっても、家・事務所には入れないよう心がけましょう。
4. 犯人は予めセールスマン、電気・ガス・電話保安員等を装い、標的とする者について事前調査を行うことが多いので、見知らぬ訪問者やいたずら電話などが頻繁にある場合には警察に通報しましょう。

4. 自分や家族の行動・所在をおやみに他人に知らせないようにしましょう。
5. 差出人不明の郵便物、小包等は慎重に扱い、少しでも不審な点があれば警察に届けましょう。

#### □ 万一の備え

1. 万一の誘拐に備え、必要書類(パスポート、保険関係書類、アメリカ及び日本での連絡先リスト等)、医療関係記録(病歴、血液型、常用薬名とその入手先、特定の持病、掛かり付けの医者名等)を整理し、これらの所在を信頼できる同僚、家族に判るようにしておきましょう。
2. 誘拐された時の心構え
  - イ. 万一捕えられて孤独な状態におかれても、家族、関係者等多くの人々が安全な救出に努力していることを忘れず、常に冷静沈着を心掛け、情勢を有利に導くよう強い意志をもって行動する。
  - ロ. 犯人は、一見合理的な人柄に見えても、決してノーマルな行動をすることを考えてはならない。
  - ハ. 犯人の指示には出来るだけ従い、挑発したり刺激しないように注意深く対応し、特に物理的抵抗は絶対にしない。
  - ニ. 逃走のチャンスは殆どないと思わなければならない。注意深く計算して、逃走成功の最善のチャンスがある場合以外には逃走を計らない方が賢明。
  - ホ. 家族、友人、会社のことは出来るだけ話さない。
  - ヘ. 連行される際は、移動時期、方向、速度、距離を記憶し、道標、臭い、声、音を含む全ての外界の動きに注意する。
  - ト. 犯人の人数、容貌、性格、動作や言葉の特徴に注意する。
  - チ. 犯人とある種の相互理解の雰囲気を作ると、こちら側に有利に事が運ぶことがある。

## 4. テロへの対策

### □ テロの脅威レベル

米国政府はテロの脅威レベルを次のように評価し、国民に伝えています。

グリーン	低い
ブルー	慎重を期す
イエロー	高まっている
オレンジ	高い
レッド	高度の危機

### □ テロ関連情報の収集

テロに巻き込まれないようにするためには、情報収集・分析を行い、危険な場所は回避するというのが基本原則です。またターゲットにならないためには情報収集に加えて隙を見せないことが肝心です。

テロの危険性は、国や地域によって違いがあり、また事情が変化することがありますから、最新のテロ関連情報を入手することが必要です。そしてテロの標的となる可能性がある施設等の危険な場所にはできる限り近づかない、大勢の人が集まる場所では警戒する、周囲の状況に注意を払うなど安全確保に十分留意して下さい。

### □ 個人に対するテロ

海外で安全に暮らすための、「目立たない」「行動を予知されない」「用心を怠らない」の三原則の遵守は、テロ防止のためにも極めて重要です。

#### ■ 目立たない

テロリストの標的とされたら、自分から気がついて対応策をとらない限り、逃れることは極めて困難です。従って、まず標的にならないことが身の安全を確保するための最も重要なポイントと考えられます。目立つことは、テロリストの攻撃目標にされやすく、かつその実行を容易にします。

#### ■ 行動を予知されない

テロリストは目標人物の行動を徹底的に調べて、最も成功率の高い時と場所を選び実行します。通勤時間・経路、食事をとる場所等行動パターンが一定している者は、テロリストにとって一番狙いやすい目標になります。

#### ■ 用心を怠らない

テロリストは油断につけ入ります。その方が実行が容易だからです。従って、テロから身を守る上で最も大切なことは、狙われていることの危険性を認識して常に用心を怠らないことです。

### □ 事務所への爆弾テロ等

1. テロの対象となるおそれのある施設の付近には事務所を設置しないよう心がけて下さい。
2. 来訪者を装った不審者が、事務所や車に爆弾を設置できないように、次の2点に気をつけましょう。
  - イ. 社員用と来訪者用の入口や駐車場を区別する。
  - ロ. 爆弾が仕掛けられた車が事務所に近づけないよう、来訪者の駐車場は、事務所から離れたところに設置する。
3. 社員・来訪者にIDカードの提示を求め、また、事務所内に死角をつくらないように、防犯カメラを設置し、監視員の巡回を強化するよう心がけて下さい。
4. 来訪者の手荷物検査を必ず行い、必要に応じて、金属探知器も用意しましょう。
5. 事務所内外の整理整頓をすることによって爆弾の早期発見を心がける等、社員全員が不審物に対し普段から注意を怠らないようにしましょう。



6. 爆破予告又は爆発物を発見した場合の行動等を定め、社員全員に伝えると共に、速やかに避難できるよう、避難先を決めましょう。爆発を想定し、避難場所は事務所から500メートル以上離れた徒歩でいける場所を、各々反対方向に2カ所定めて下さい。
7. 小包や手紙は、受領時点で爆発物の疑いがあるか否か早く発見するように気を付けましょう。不審物の疑いがある時は、発送人に問い合わせ、不審物と判断された時は、触らずに避難し、警察へ連絡します。
8. テロリストは事務所や自動車に爆弾を仕掛けることが多いので夜間、長時間路上や警備員のいない駐車場に車を放置することは避けてください。また、車に乗り込む際には、事前にタイヤ周辺、車体下部、車内を点検し、異常がないか確認しましょう。
9. 身近で爆発事件が発生した場合は、すぐその場に伏せて下さい。最初の爆発後、第二の爆発が起きる可能性があるため、可及的速やかに爆発現場から遠ざかるようにして下さい。



#### □ 国境付近の特殊事情

テキサス州とメキシコとの国境は総延長1500kmに及び、エルパソ、ラレド、マッカーレン等のマキラドーラ関連の日系企業が多く進出しています。特にこの地域のメキシコ側の都市(ホアレス、ニューボ・ラレド、レイノサ)は、賃金、失業率、インフラなど米国と比べ大幅な格差が存在しますが、これらの都市では、米国が目と鼻の先にあるため、米国への密入国や麻薬等の密輸の舞台となっています。米国への密入国者の殆どが着の身着のままやってくるため、密入国の前後の生活費のために犯罪を犯すケースもあります。また、麻薬の密輸は年々大掛かりになっており、組織同士の抗争に巻き込まれる虞もあります。

#### □ 犯罪防止のための留意事項

治安の良い国から悪い国へ通勤している駐在員の場合には、居住地を地元と意識しがちですが、地元意識を勤務地にも持ち、地元新聞、テレビ等で現地の犯罪事情に関する情報収集に努めましょう。「**自分も犯罪被害者となりかねない**」との意識を持つことが、被害防止上極めて重要であり、安全対策の出発点となります。企業や駐在員間で、日頃から連絡を密にし、情報を共有することも大いに役立つでしょう。

また、勤務地の事情に関心を持つ人でも、長年安全な居住地から通勤していると治安情勢や社会事情に大きな格差があることへの認識が薄れがちです。**豊かな居住地ではありふれた車でも、貧しい勤務地では高級車となります。**こうした落差を常に認識して行動して下さい。

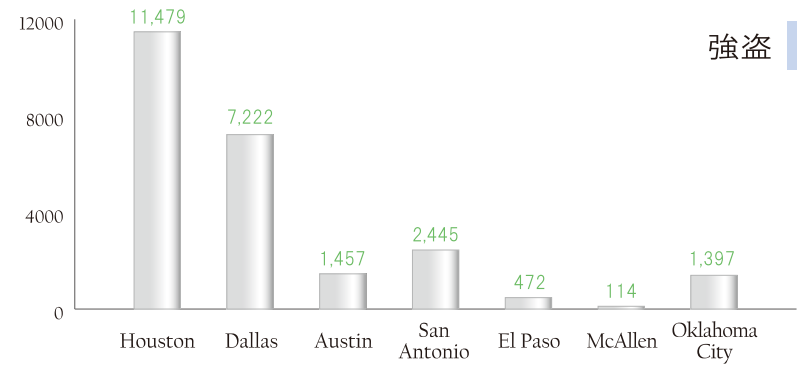
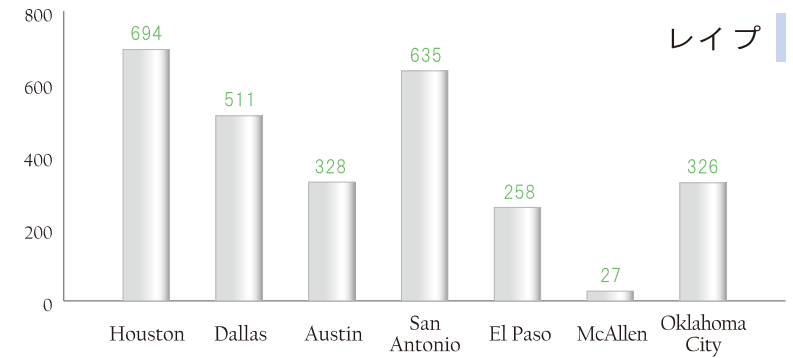
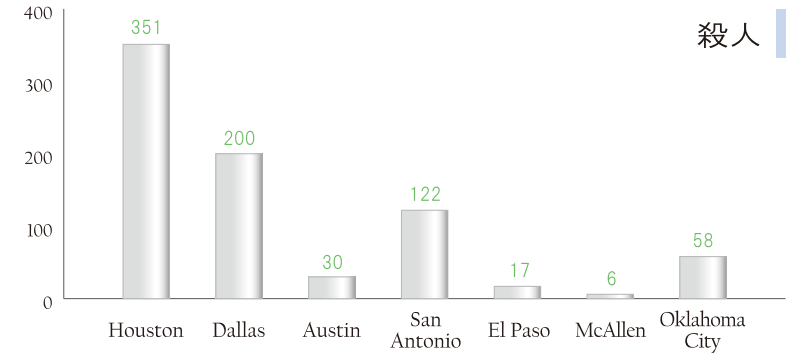
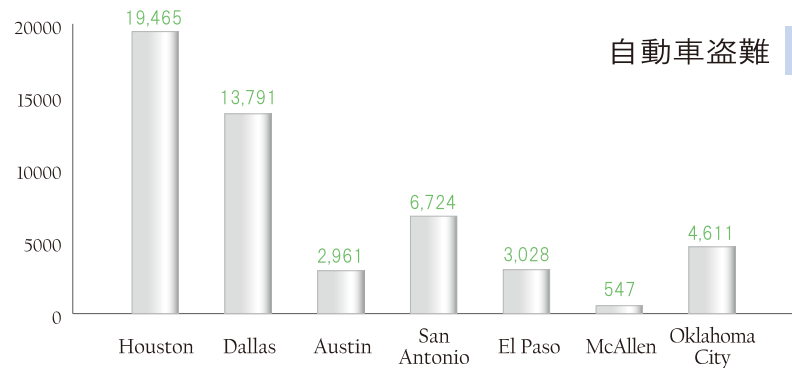
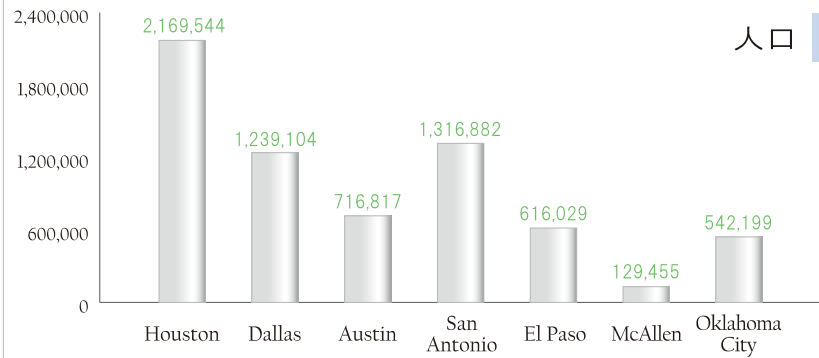


資料:テキサス・オクラホマ州の最近の犯罪動向

各主要都市の犯罪発生動向

	Houston	Dallas	Austin	San Antonio	El Paso	McAllen	Oklahoma City
人口	2,169,544	1,239,104	716,817	1,316,882	616,029	129,455	542,199
自動車盗難	19,465	13,791	2,961	6,724	3,028	547	4,611
殺人	351	200	30	122	17	6	58
レイプ	694	511	328	635	258	27	326
強盗	11,479	7,222	1,457	2,445	472	114	1,397
傷害	12,040	5,315	2,056	4,125	1,827	225	2,831
侵入強盗	29,044	22,472	8,031	16,750	2,149	824	8,110
窃盗	74,817	47,699	34,461	60,669	14,545	6,537	19,228

(出典:2007年FBI犯罪統計)



## II 緊急事態対処マニュアル

### ハリケーン

#### □ ハリケーンについての基礎知識

一般にハリケーンは6月から11月にかけて頻繁に発生します。  
ハリケーンは、Tropical Wave → Tropical Depression → Tropical Storm → Hurricaneの順に発達していきます。

#### □ ハリケーンの規模と警報に関する用語

規模	1	2	3	4	5
風速 (マイル/時間)	74 }	96 }	111 }	131 }	156 以上
	95	110	130	155	

#### ■ Hurricane

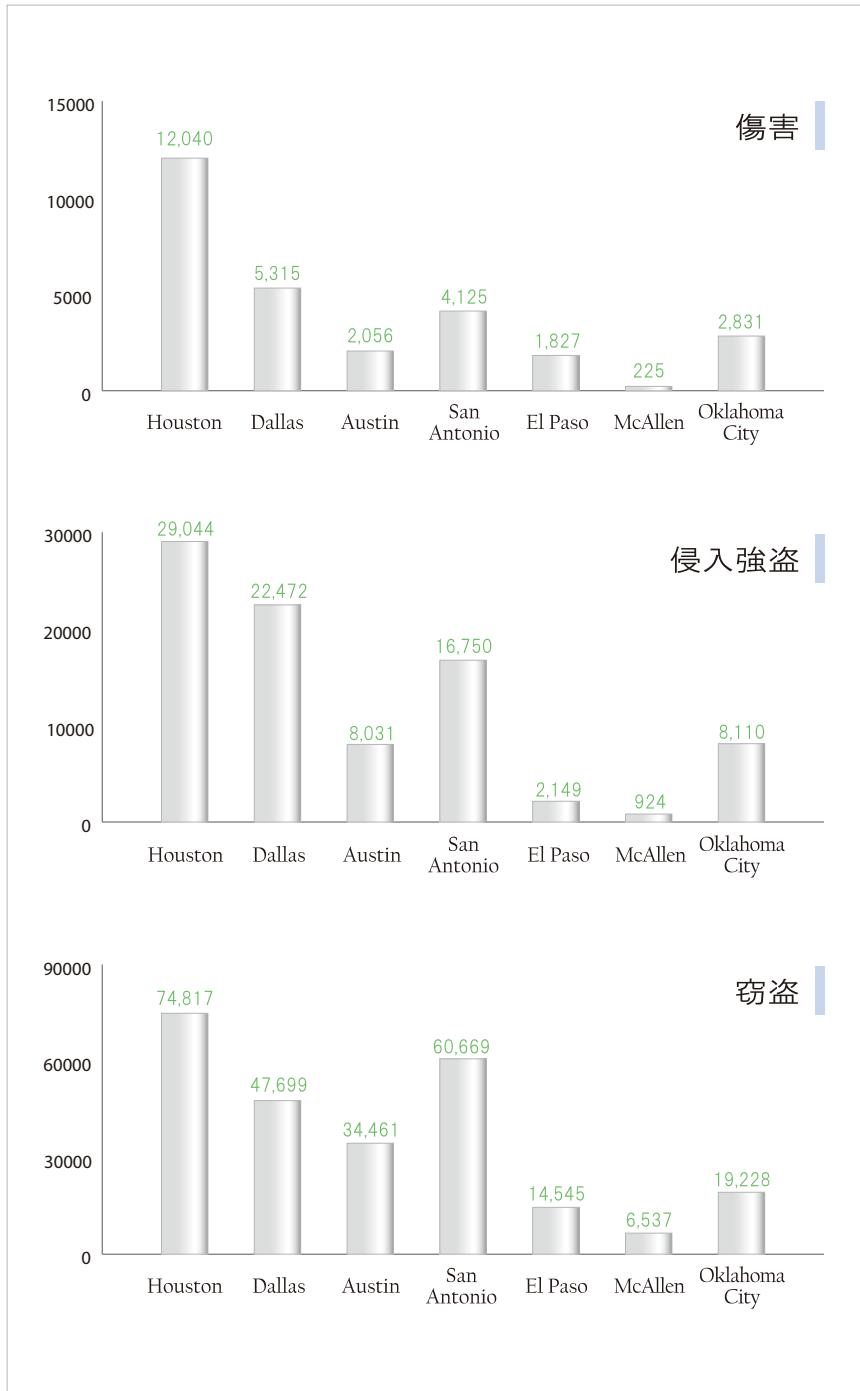
風速が74マイル以上の暴風雨。(表のように5つのカテゴリーに分別)

#### ■ Hurricane Watch

36時間以内に何らかの被害が発生すると考えられる状況。

#### ■ Hurricane Warning

被害が発生し始めると、この警報が発せられ、24時間以内にHurricaneが直撃する可能性がある。この警報が発せられると、指示に従い避難の準備、もしくは避難を開始。



□ ハリケーン対策(以下の事項は、洪水対策にもほぼ該当します。)

ハリケーンが襲来すると、水道や電気が使用できなくなったり、避難のための必需品が入手困難になったりしますので、平日頃より次のような準備を心がけることが大切です。

- イ. 避難勧告が出た際の、避難場所(万一に備え第2候補等も決めておく)及び避難場所までのルートの確認をする。
- ロ. 重要書類(パスポート、保険証書、出生・結婚証明書等)、クレジットカード及び現金(ATMが使用不能になる場合があるため)を直ぐ取り出せる場所に保管する(その際、防水性のある袋等に保管する)。
- ハ. 飲料水については、一人1日約1ガロンが目安。2週間分程度を用意する。また、食料品も同様に長持ちするものを、約2週間分用意する。
- ニ. バスタブや使用していない入れ物を洗浄し、洗濯等の用途のために水道水をためておく。
- ホ. 避難用携帯品として、医薬品、石鹸、懐中電灯、予備の電池、ナイフ、フォーク、バッテリーラジオ等必要と思われる物をあらかじめ、一つの袋にまとめて用意しておく。
- ヘ. 外に置いてある、植木鉢やゴミ箱など暴風によって飛ばされる可能性のある物は、固定するか屋内に置いておく。

□ ハリケーン通過後及び洪水発生時の注意

- イ. 家の近くや行き先付近で電線が切断されていないかどうかを確認する。感電死等の危険も考えられるので、水たまり、鉄製のフェンス等に注意を払う。
- ロ. 水があふれた時は、道路と水路との境目がわからない上に普段慣れた道でも非常に崩れ易くなるので、運転及び通行には十分気をつける。車が水に閉じこめられた場合は、直ちに車を捨て、高所に避難する。  
また、このような時の水たまりは非常に深くなっている可能性があるため、極力避けて通るようにする。

□ 全米・カナダ邦人安否確認システム

全米及びカナダにおいて大規模災害が発生した場合、電話回線の混雑等により、日本の家族等に連絡がとりにくくなる可能性があります。そのような場合に連絡をとりやすくする為『全米・カナダ邦人安否確認システム』が設置されました。

このシステムは、大規模災害等の緊急事態発生時に稼働されるもので、全米及びカナダの被災地の方が、米国内のデータセンター(災害時でも電話がつながりやすくなっています)に電話をして、パスワード(電話番号と同じく日本の家族等がセンターに電話をかけて同じパスワードを入力し、そのメッセージを再生することにより、安否等を確認することが出来ます。

本システムご利用の際には、次の番号に電話をおかけ下さい。

1-866-903-2674 (ANPI)	・全米・カナダからは通話料無料
1-866-904-2674 (ANPI)	・その他の地域からは米国までの通話料有料(※1)
1-866-905-2674 (ANPI)	

1-718-313-9150 通話料有料(※2)

※1 繋がりにくい場合には、上記のフリーダイヤル番号及び有料通話番号のうち別の番号にかけ直す事によって、電話がよりつながりやすくなります。しかし、被災地の電話公衆網そのものがダメージを受けた場合等は、復旧するまでの間利用できない場合があります。

※2 米国及びカナダ以外から電話をおかけになる方の通信環境によっては、フリーダイヤル番号につながらない場合があります。この場合は、有料通話番号におかけください。



## 連絡先

DALLAS  
(名誉総領事)

John.M.Stich  
TEL: 972-713-8683

OKLAHOMA CITY  
(名誉総領事)

Lloyd T. Hardin, Jr.  
TEL: 405-552-2411



緊急電話(英語)

警察・消防は

**911**

Consulate - General of Japan in Houston

在ヒューストン日本国総領事館

2 Houston Center,  
909 Fannin Street, Suite 3000,  
Houston Texas 77010

電話番号: 713.652.2977 (代表) FAX番号: 713.651.7822

URL: <http://www.houston.us.emb-japan.go.jp>